



Contents
目次

特集：ルクミーリニューアルから1年～先生方の声でここまで進化しました～

事例：若手が活躍！ルクミーを活かして先生の時間を作り上げるまでの挑戦 ～北柏駅前保育園わらび～

社員インタビュー：代表取締役社長 土岐 泰之／プロダクトマネジメント部部长 山口 隆広

特集：ルクミーリニューアルから1年～先生方の声でここまで進化しました～

ルクミーは先生達の「もっと見たい」子ども達の「もっと見てほしい」を叶えるツールです。

子ども達の写真を簡単に撮って整理ができる「ルクミーフォト」から始まり、「ルクミー午睡チェック」、「ルクミー体温計」、「ルクミーシフト管理」、「ルクミーバス位置情報」など目的に応じて個々のサービスがありました。

バラバラにあったルクミーシリーズの各種データを連携し、ひとつのツールで使えるようにパッケージとして生まれ変わったのがちょうど1年前の2021年9月です。

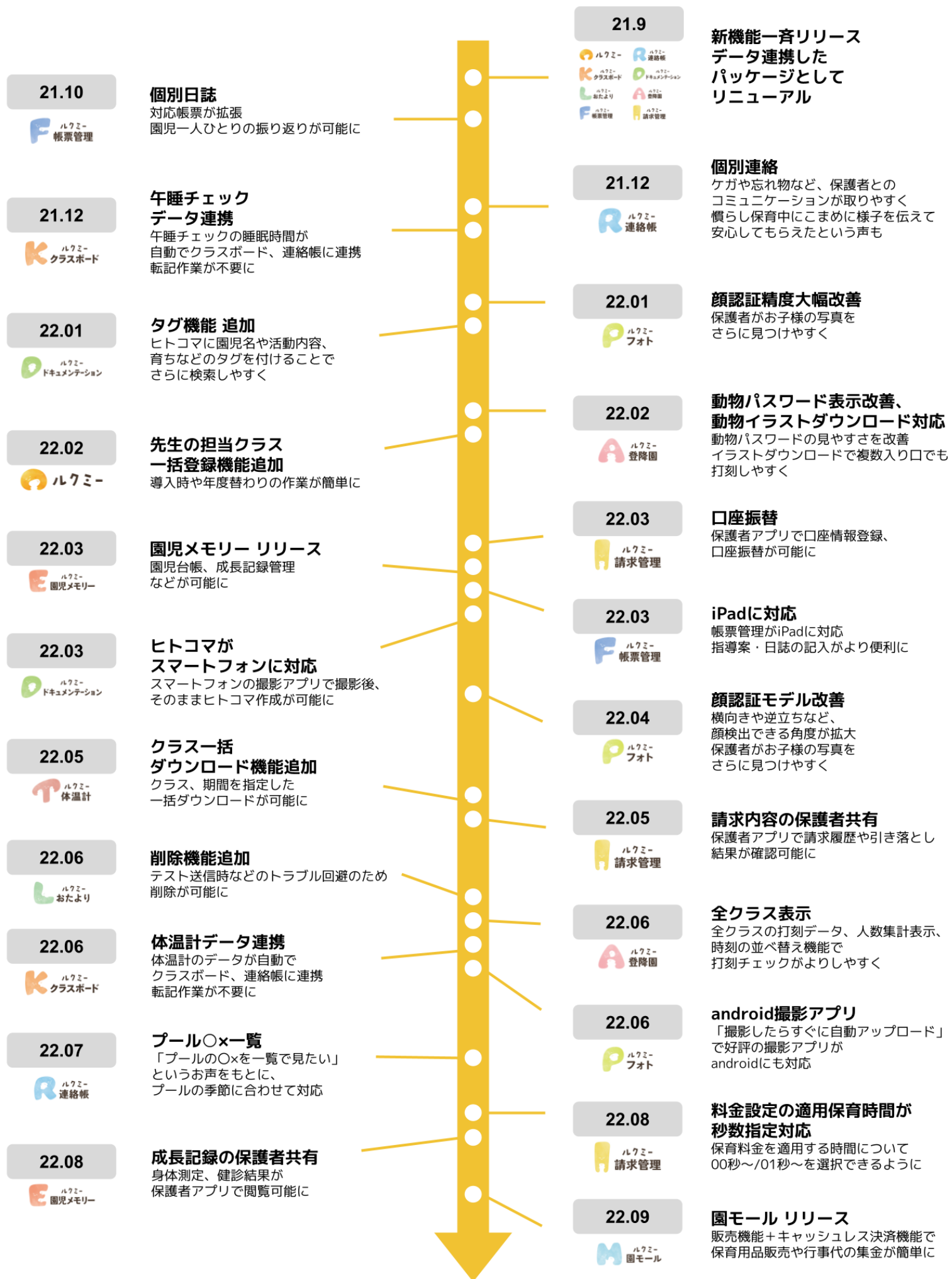
「もっと便利に」「もっと子ども達とワクワクできる時間が過ごせるように」なることを目指して、全国各地の保育園・幼稚園・こども園の先生方にたくさんのご意見をお聞きしてきました。

アップデートは平均に月1回以上行い、ここまでの進化を遂げてきました！

「こんな機能があったら良いな」「こうしたらもっと良くなりそう」といったご意見がありましたらぜひお声をお寄せください。

これからもスクスクと育っていくルクミーにぜひご期待ください！





これからも進化を続ける
ルクミーにご期待ください

特集：若手が活躍！ルクミーを活かして先生の時間を作り上げるまでの挑戦 ～北柏駅前保育園わらび～

「スマート保育園・幼稚園・こども園」モデル園である北柏駅前保育園わらびの理事長 戸巻先生、園長 小室先生に、ICTを活用してゆとりを生みだし、保育の変化に繋げてきたエピソードを伺いました。

——「スマート保育園・幼稚園・こども園」モデル園に応募された理由を教えてください

戸巻先生：

この保育士不足の中で「何もせずに待っていても変わらない」と感じていました。現場で苦労している先生方の姿を見て「何かアクションを起こす必要がある」との思いがあり、応募をしました。

アクションとしては、一番は休憩時間を1時間しっかり確保して、「子ども達から離れて事務処理ができる時間＝ノンコンタクトタイム」を作るように努めました。

具体的にはICTを活用したということももちろんですが、マインドの面では「できない」ではなく「どうしたらできるか」考えて工夫するように、現場の先生も園を運営する側も意識していました。

そうすることで、先生方は定時で帰ることができ、無用な超過勤務もなくなります。

——新たな取り組みをやる時には、現場への負担になる面もあると思います。先生方から不安の声は上がりませんでしたか？

小室先生：

心配もありましたが、若い先生がどんどんやってくれたので「あ、若い先生に教えてもらおう！」と思ったのですね。普段は控えめな若手の先生が「こうやってやるのが良いですよ」とサクサクと操作するのを見て、「すごいね～、こういうのがパパッとできちゃうんだ！」というやり取りが生まれました。

導入がきっかけで新しいコミュニケーションが生まれ、若手の先生にも自信がつく経験が増えて、普段の保育での自信にも繋がっていると感じました。

戸巻先生：

ルクミーはかわいいデザインであったりボタンひとつで済むように作られていたり、現場の先生に親和性があるように作られています。

だから「毛嫌いせずにやってみよう！」と励ましながら一歩踏み出しましたね。

——ルクミーを導入して良かったことはありますか？

小室先生：

写真が簡単に撮影・整理できるようになったので、ドキュメンテーションも活発にできています。

最初は凝って休憩も使ってしまうくらいの勢いで取り組み始めたドキュメンテーションでしたが、理事長から「写真1枚でも良いんだよ」とアドバイスいただき、15分で作れるドキュメンテーションを目指しています。

それを見ている子どもたちが「自分達もやりたい！」と自分達でドキュメンテーション作りをしているんです(笑)。

戸巻先生：

先生方のリズムの中に余裕が生まれ、先生同士で今の子ども達やこれからについて話し合う時間が生まれたのですね。

そして先生方が子ども達との時間を楽しめるようになりました。先生が子ども達に指示する、大きな声を出して指示をするということがなくなってきました。子ども達も自分で考えて行動できるようになってきた証かなと思います。

そのきっかけがICT導入だったのだと振り返っています。

——ありがとうございます、最後にメッセージをお願いします！

戸巻先生：

導入したら全てが楽になるわけではありません。一時的に負担は増えますが、継続することで軽減できます。

また導入したからといって、ただ使い続ければ負担が減るわけではありません。

どう活かして先生の時間を作り上げるか、負担軽減するかをしっかりと考えることが大事だと感じています。

最初の一步目、二歩目は大変かもしれませんが。現場の先生方と一緒に、その先に何が見えるのかを一緒に共有していきましょう。三歩目、四歩目と歩みを進めた頃には先生達のゆとりや子ども達の笑顔が待っているでしょう。

ルクミーの中の人

代表取締役社長 土岐 泰之



いつもルクミーをご愛顧くださり本当にありがとうございます。

これからの時代を生きる子どもたちがどのような価値観、生きる力を持って社会に羽ばたいていくべきかと考えた時に、日々本当に重要な仕事をしていただいている皆様に感謝を申し上げます。

創業の背景を少しお伝えしますと、私は福岡県北九州市に生まれ、沢山の愛を貰って育ちました。自分自身が通っていた幼稚園では、毎日先生方が「やっちゃん、やっちゃん」と声をかけてくれて、見守られているんだと暖かい気持ちになったのを覚えています。人間の根本として、乳幼児期にどれくらい愛情を受けたかが、大人になって自分を信じてみよう、社会に還元しようというところに繋がると感じています。

自分に子どもが生まれてからは保育園にお世話になり、姉が保育士をしていたこともきっかけとなって、自分がもらった愛情を社会全体の家族の幸せに還元したいという思いがあり、「家族の幸せを生み出す社会インフラを作り出す」という強い思いをもって創業しました。

ルクミーは、当初はフォトのサービスのみからスタートしましたが、1年前にパッケージになりました。

この業界が本当の意味で未来を生きる子どもたちの生きる力を育んでいく、そのために選ばれる園づくりをサポートさせていただくという挑戦はこれからが本番だと思っています。

ルクミーというサービスを私の人生をかけて育て、皆様とともにこの業界をよりよくしていくべく尽力していきたいと思っています。

ルクミーの中の人

プロダクトマネジメント部部长 山口 隆広



開発というと、やる事が決まっていて順番に取り組んでいるとイメージする方もいるかもしれませんが、どのような課題を解決するか？というところから始めています。

その中でも特定の園だけでなくどの園にとってもプラスになるのかを見て判断しています。開発予定については、3年先くらいまで決まっているんでしょう？と言われることもあるのですが、困っていることが変化することもありますから、先生方のご意見を伺いながら3か月に一度くらいの頻度で優先順位を見直しています。

開発で大切にしているのは、本当に園・施設の課題を解決するものになっているかということです。先生の仕事が単に増えるような機能になっていないかは気にしています。

ルクミーはパッケージになって1年が経ちましたが、リリースしてみて元々の想定と先生方の反応が違ったこともありました。新しい機能追加と並行して、使い始めや年度替わりの手間、端末の対応など、使い勝手の改善も進めていきたいと考えています。

そして、目の前のお困りごとを解決するのはもちろんですが、それだけでなく「ルクミー」の由来のとおり、テクノロジーの力を通して子どもたちの気づきや育ちに繋がる開発をしていきたいです。

ルクミーはパッケージになってようやく1年。私自身も保護者として保育園にお世話になっていますが、自分のケースしかわかりません。ルクミーと一緒に作り上げていく段階なので、ぜひお話を聞かせていただき、一緒に良くなってほしいと思っています。